

平成 29 年 7 月九州北部豪雨 緊急調査報告会



農業農村工学会

日時：平成 27 年 8 月 30 日（水）10:00～12:00

場所：日本大学生物資源科学部 1号館 4階 143 講義室

平成 29 年 7 月の九州北部豪雨では、流域で発生した土石流の影響等で、ため池を含む農業水利施設の一部地域に大きな被害が発生しました。

農業農村工学会では学会としての社会貢献の一環として、九州大学を中心とした研究者で構成された調査団を派遣しました。また、農研機構農村工学研究部門では災害対策基本法第 80 条に基づき、農林水産省からの要請に応じて現地に職員を派遣し災害への技術支援活動を行いました。

これらの現地調査結果の報告会を「平成 29 年 7 月九州北部豪雨 緊急調査報告会」として開催することとなりましたので、会員の皆さまの参加をお願いします。

1. 福岡県朝倉市の九州北部豪雨被災概況 農業農村工学会調査団

（九州大学大学院農学研究院・教授 平松 和昭）

農研機構調査団のため池に関する報告に先立って、農業農村工学会調査団のため池、山田堰、堀川用水などの調査箇所の被災概況を報告する。

2. ため池における洪水・土砂災害の実態（仮） 農研機構第 2 次調査団

（農村工学研究部門施設工学研究領域地域防災ユニット長 吉迫 宏）

山田地区ため池群（山の神ため池、山の神 2 ため池、鎌塚ため池）を中心に洪水、土砂および流木の流出と被災の実態を報告する。必要に応じて周辺のため池等との比較を行う。

3. ため池 SIP とため池の被災原因の分析（仮） 農研機構第 1 次調査団

（農村工学研究部門施設工学研究領域土構造物ユニット長 堀 俊和）

ため池の被災要因について調査結果を報告する。

- ① 堤体の脇を流れる小河川の土石流により堤体が損壊したため池
- ② 流域からの土石流で決壊したため池
- ③ 想定を上回る土石流で洪水吐周辺や堤体下流が損壊したため池

上流からの土石流と上流ため池の決壊土砂を受け止め被災した鎌塚ため池（九州農政局土地改良技術事務所撮影）